

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



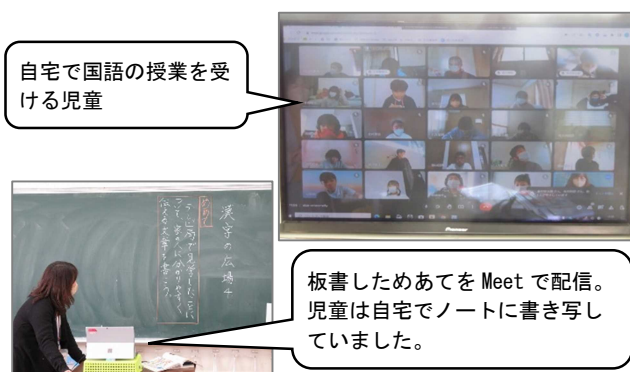
発行元
佐野市教育センター
佐野市上羽田町 1134 番地 1
電話 20-3108
20-3048(相談専用)

空気が乾燥する冬季を迎え、新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあります。それに伴い、学級休業や学年休業を行う学校も徐々に増えてきました。今回の GIGA 通信では、新型コロナウイルス感染症による学級休業時の学びの保障として、一人一台端末を活用されている界小学校と吾妻小学校の実践をご紹介します。

『オンライン授業で既習漢字を使った短文づくり～6年生国語での実践例～』(界小)

界小の6年生の学級では、平日の3日間が学級休業となりました。この間、予備時数の少ない6年生にとって貴重な授業時数を確保するためオンライン授業を実施されていました。担任の先生にお話をうかがったところ、教室で実施可能な教科については基本的にオンライン授業を実施。また、朝の会を Meet で行い、一人一人の児童と顔を合わせながら健康観察を行ったり、言葉を交わしたりしているとのことでした。

学校のご厚意により、4校時にオンラインで行っている国語(「漢字の広場4」)の授業を参観させていただきました。授業には、体調の悪い児童以外の全ての児童が参加していました。



自宅で国語の授業を受ける児童

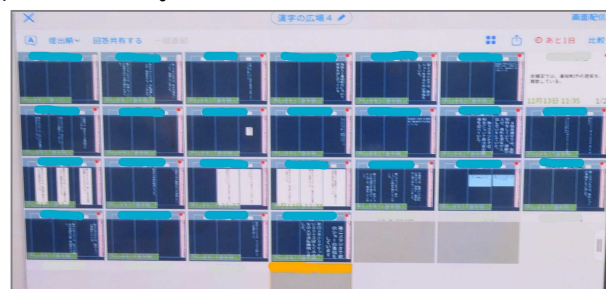
板書しためあてを Meet で配信。児童は自宅でノートに書き写していました。

学習活動	端末活用(教師の支援)
○めあての確認 ○3つの場面を選び、既習漢字を使って短文を作る。(※1)	◆Meet で配信。 ◆ロイロノートでシートを配信。そこに短文を書くように指示する。

- | | |
|--|--|
| ○作った短文を提出する。 | ◆ロイロノートの提出箱に提出させる。 |
| ○作った短文を学級で読み合う。 | ◆児童の短文を画面上で共有。友達の短文を読めるようにする。 |
| ○友達の短文を参考にして新たな短文を作ったり、先ほど作った短文を修正したりする。(※2) | ◆画面上で児童の活動の様子を確認。つまづいている児童や早く終わっている児童に声をかける。 |
| ○できあがった短文を再提出する。 | ◆提出箱は午後まで、いつでも提出できる状態にしておく。 |
| ○まとめと振り返り | |

◇児童の作文を画面上で共有し、友達の文を読めるようにする。

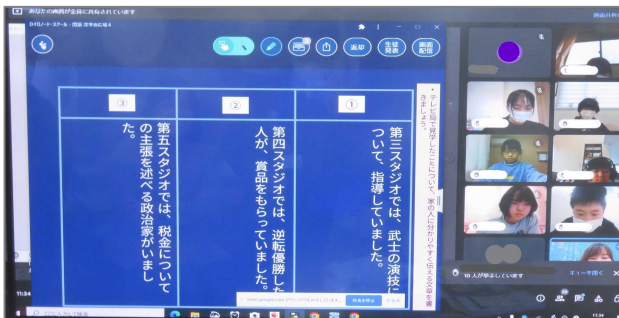
この授業で、児童は既習漢字を使った短文づくりをしました。前半の短文づくり(※1)で、3つの短文を時間内に作れた児童はあまり多くなく、中には1つ作るのがやっとという児童もいました。そこで、担任の先生は、学級の児童の短文を画面上で共有し、友達の作った短文を読めるようにしました。



友達の短文を読むことでヒントを得られたのか、後半の短文づくり(※2)には、ほとんどの児童がスムーズに取り組んでいました。また、先生は画面上で随時児童の様子を観察し、つまづいている児童や早く書き終わってしまった児童に、「分からないことがある?」、「3つ書いたら別の場面で作ってもいいよ。」など個別の声かけを行っていました。授業の終わりには、多くの児童が3つの短文を書き上げることができました。

◇全ての児童が提出できるよう、提出箱への提出期限を長めに設定。

授業終了時、ほとんどの児童は本時の課題を達成できていましたが、数名の児童は3つの短文を完成できずにいました。そこで先生は、提出箱への課題の提出期限を午後までとし、このあと自宅で続きを行い、3つの短文が完成したら、いつでも児童が提出できるようにしました。こうすることで、時間内に短文を作ることができなかった児童も、改めて自分のペースで安心して短文づくりに取り組めると感じました。



『教室同様のやり取りをオンラインでも ～2年生国語での実践例～』(吾妻小)

吾妻小の2年生も、平日の3日間は学年休業となりました。1日目を準備期間とし、2日目よりオンライン授業を開始したそうです。

参観させていただいたのは、国語「冬がいっぱい」の授業でした。

学習活動	端末活用（教師の支援）
○めあてと学習方法の確認	◆Meet 接続。児童の質問やつぶやきに教師が対応。
○冬の言葉を使った話をノートに書く。	◆Meet 接続。教師が児童とやり取りしながら進捗状況の確認や質問への対応を行う。
○書いた話を発表する。	◆Meet 接続。教師が指名し児童は自分が書いた話を読む。教師が評価のコメントをする。
○まとめと振り返り	
○しりとりをする。	◆Meet 接続。児童が名簿番号順に単語を発表。

◇教師も児童も「音声 ON」で、これから行う学習活動の不安を解消。

児童の端末は「音声 ON」の状態です。授業がスタートしました。先生がめあてや学習方法を説

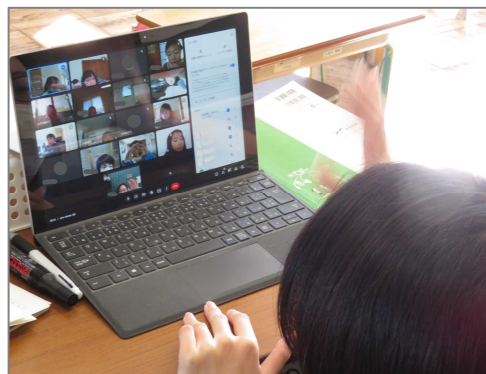
明すると、「どのくらい書くのですか?」「1つ書いたらどうするの?」など、たくさんの質問やつぶやきが聞こえてきました。



先生はそれら1つ1つのつぶやきに丁寧に対応し、児童が自力で学習を進められる状態に近づけていきました。その様子は、普段の教室と変わらないものでした。

◇「オンラインしりとり」で児童同士も楽しくつながる。

学習内容が早めに終わり、少し時間が余りました。そこで行われたのが「オンラインしりとり」です。先生から始まり、名簿番号順につないでいく、というものです。



先生は、児童とのやり取りに加え、チャット欄にしりとりの経過を記入して、みんなが見えるようにしていました。しりとりの間も、全員の音声は基本的に「ON」のまま。すぐに単語が浮かばない子がいると、「『ふ』がつく言葉は、国語の教科書に出てきたよ!」「『○○のとう』だよ!」などヒントの声が聞こえてきました。オンライン授業というと、教師と児童の「中継」的なやり取りが思い浮かびますが、工夫次第で児童同士も楽しくつながり、教室のような雰囲気を生み出せることが分かりました。



児童と先生でオンラインしりとりを楽しみました。